

〈活動実績発表〉

題名： Howl of the wolf

～ 1 人の意識改革が組織を変える～

広島県 JA 三次青壮年連盟

今、映しだされているのは、

平成 26 年度 JA 青年組織手づくり看板全国コンクールで日本農業新聞賞を受賞した作品です。我々 JA 三次青壮年連盟は、手づくり看板を始め色々な活動をしていきますが、今回は 12 年間続けているバケツ稲、常に新しい事にチャレンジしている中から女性部との交流、そして改革について発表いたします。

【食農教育活動】

始めに食農教育についてです。

平成 13 年 8 月 25 日、三次市内から約 80 k m 離れた広島市内へ、

三次の「安全・安心・新鮮」な農産物を都会の消費者へ直接届けることを目的として、JA 三次の直売所「三次きん菜館」がオープンしました。

当時、盟友達も直売所へ自分たちが一生懸命作った農産物を出荷し始め、

出荷した野菜がいくら売れたか、どんな農産物が売れるかななどの話題で持ちきりでした。

そんな中、役員会で

「せっかく都会の消費者と繋がりが出来る機会が出来たんじゃけえ、
都会の人に農業について知ってもらおうや〜」

など作物を作る喜びや大変さを知ってもらいたいと意見が出ました。

盟友のほとんどが米農家であったので、バケツ稲栽培をすることになりましたが、ただバケツに稲を植え収穫しても楽しみが少ないので、順位をつけて競い、そして最優秀の1名に盟友が作ったお米をプレゼントすることになりました。

また、盟友が農作業について説明をする事にし、

平成15年春より品評会付きのバケツ稲がスタートしました。

いざ始めると本当に参加者は集まるのか、不安はありましたが、

三次きん菜館で募集をかけると、定員をオーバーする応募があり盟友一同胸をなでおろしました。

5月盟友が直売所へ行き、バケツ稲に募集した消費者30名に栽培セットを渡します。セット内容は、栽培用のバケツ、コシヒカリの苗、観察ノートなどです。

担当した盟友は、バケツで稲を作る方法や注意事項などを説明し

自分が三次市のどこで農業を行い、

「何時、何を、どのように栽培し、出荷しているのか」を話し、参加者からの疑問や質問について答えます。

9月収穫をむかえたバケツ稲を直売所まで持参してもらい、分けつ本数、草丈、穂数を比較し審査を行います。

後日、直売所へ結果表を掲示し、最優秀賞1名へ盟友が作ったコシヒカリ10kgをプレゼントし表彰します。

また、参加者全員に盟友が作ったコシヒカリ 2kg をプレゼントしました。

参加者からは、

「お米の穂数の多さに驚いた」

「すずめが穂を食べて大変だった」

「農作業の大変さがわかった」

などの感想をもらい、現在まで継続して開催しています。

また、うわさを聞いた近くの幼稚園の園長より、是非、園児に体験させてやりたいとお願いされ、私たちの思いと一致し引き受けました。

内容は、5月盟友が幼稚園に行き自分が栽培している作物の紹介や、紙芝居を使ってお米が出来るまでの流れをわかりやすく説明します。その後、園児と一緒にバケツの中に土と水を入れて手で代かきをします。

園児たちは、手を泥だらけにし、キャッキヤ言いながら一生懸命作業をします。

最後は、小さな手で苗を植えつけ終了です。

10月収穫祭の開催。子供たちが一生懸命作ったお米は、園児と保護者で収穫をして頂き、そのお米でポン菓子をつくります。ドーンという音がするたびに園児たちは驚いていました。

最後に園児に大変人気がある JA グループ広島のカラクター “い〜ねくん” とのふれあいです。もちろん中に入っているのは盟友です。毎年これを楽しみにしている園児に蹴られても、叩かれてもそこは我慢です。

これは、園児たちから届いた感謝状と手づくりの記念品です。感謝感激です。

【女性部との活動】

つづいて女性部との交流について説明します。

農青連の役員会の中で、同じ地域で活動している女性部と何か交流できないか、共に活動を行うことで地域の活性化につながらないだろうかと考えていたところ、平成24年7月に“第8回めぐりスクール全国サミット in JA 三次”が開催されることになり、女性部と共演したらどうかと事務局より提案されました。

女性部と協議した結果、食農教育を行う際「地産地消」をテーマに

「自給率向上」や「フードマイレージ」など、食と農に関するキーワードを題材にした“フードレンジャー チャグリン”という歌にそってダンスを披露する事になりました。

練習開始、これは、ダンスの練習風景です。普段ダンスを行った事のない盟友は農作業のあと女性部との合同練習に参加し猛練習しています。

リズムの合わない盟友やダンスがぎこちない盟友など様々で、本番当日まで一生懸命練習しました。

当日、会場となった広島三次ワイナリーで、始め緊張していた盟友もいざ踊りだすと、緊張もほぐれ楽しく踊ることができました。

今回の活動を通して、女性部との交流が深まり色々な意見交換をすることができるようになりました。

平成26年三次市が“野菜は元気の宝箱”という食育推進の歌をつくりました。この曲には振付があり、地産地消を推進しようと女性部と共に“フードレンジャーチャグリン”と合わせて一生懸命練習しました。

いざ本番、JA 三次のグリーンフェスタで猛練習した成果が試される時です。

これまでの成果を見せようと、盟友と女性部共に生き活きと、いい笑顔でダンスを踊っています。今回女性部と活動していく中で、子育てママがより活動に参加しやすいよう託児が頼めないか検討中です。

その他にも地元の野菜や、果物を使った地産地消の料理教室なども行い、今後ともこれらの活動を継続し、地域の活性化につながるようにしていきたいと思えます。

【盟友からの改革】

しかし、これらの活動を続ける中で、盟友の参加が少なく、40名の盟友の中で10数名しか活動に参加できていない問題がつづいています。盟友の年齢層も40才以下の盟友は10名で、活動の活発化と農青連若返りを図るため、地元の農業青年クラブに声をかけ加入を勧めました。しかし、返答は、JAとの繋がりがあまりなく、青壮年連盟に加入した場合のメリットが少ないとの意見が多く、良い結果は得られませんでした。

これをうけ、農業青年にとってのメリットとなる事について話し合い融資利息の引き下げなど多くの意見が出ましたが、その中で比較的、実現可能な4項目を選び平成25年度の農青連総会で組合長へ申し入れを行いました。

1. 盟友が資材をいつ注文しても予約価格とする。
2. 盟友を対象にJAポイントの割り増し制度を導入する。
3. JAの新人職員が盟友宅で農業体験を行う。
4. 農業関連制度の説明会を開催する。

これらの項目を実現するために、平成 26 年の総会へ営農経済委員の理事に出席してもらい申し入れした項目について意見交換を行い 4. の農業関連制度の説明会については開催することができました。

残りの 3 項目についても引き続き実現を目指し、意見交換会を行っています。

また、15 年前より農協の理事会へ農青連役員 1 名が参与として、参加していますが、理事会では意見を協議してもらう時間がなかなか取れないという問題がありました。

その問題について理事に相談すると、委員会なら発言の時間が十分確保できると、参与の営農経済委員会への参加が平成 26 年夏より実現できました。

営農経済委員会では、発言する機会も増え盟友の考えや要望を理解してもらえるようになりました。

平成 27 年春、営農経済委員が農業の現場を視察し、より農家の状況について理解してもらおうと、現地視察を要望しました。

平成 27 年夏、要望したことが実現しました。これは、その時の場面です。

現地は、盟友が栽培しているミニトマト（アンジェレ）のハウス施設です。

現場では、ミニトマトの仕立て方、労力の軽減方法、青枯れ病の対策、

収量など問題点や改善策について要望しました。

また、10 月には今年度から新たに導入が始まった、地元の白葱の栽培農家や農事組合法人の現地視察を行いました。

農家が直接現場の考えや意見などを伝え、対策を行うことで、

農業所得の向上や働きやすい環境を整えていければと考えています。

今後は JA の理事全員が、現場に出て組合員の考えや意見・要望などを直接聞き JA の運営に役立てて頂けるよう活動していきたいと思えます。

平成 27 年 8 月 28 日農協改革法案が可決・成立されました。地域農協では、理事の過半数を原則として、認定農業者や農産物販売などのプロとする事や、農家所得の増大を第 1 とした経営目的の明確化などが盛り込まれています。

JA 三次農青連は、農協改革など社会情勢が変動している中、外部からの改革ではなく、現場からの改革を行って行くべきだと思っています。

その為には、私たち盟友 1 人 1 人も意識改革が必要であり、JA の運営にもっと積極的に参画していくべきだと思えます。その一つとして農青連の理事枠を設けて頂くよう要望する予定です。

最後にこんな話があります。

オオカミが犬になったという話です。オオカミは人によって変えられたのではなく、自ら変わったというのです。

人間の活動圏が拡大しオオカミの生態系に影響与えるようになりました。

この環境変化に順応したオオカミの中にはやがて人と暮らす者が現れました。

そのオオカミから生まれたオオカミの毛色は保護色ではなく、いろんな毛色をしていたそうです。

1つが変わればそれに合わせて他も変わる。これが物事の道理なら、一度にみんなが変わらなくても、一人が変われば周りも変わる。その一人は他の誰でもない私達です。

一人の意識改革が組織を変える。現場から改革を！！

Howl of the wolf とは？

負け犬の遠吠えにしない！

オオカミの遠吠えが仲間を動かし組織を変える！！